

	課題（児童の実態，学習状況，指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン，具体的な手だて）
国語	- 物語文や説明文を読む学習では、叙述に即して心情等を読み取ったり、文の構成や内容から要旨を読み取ったりすることが苦手で、要約することに苦手意識をもつ児童が多い。 - 調べた内容や文章から感じたことへ自分の考えを書いたりすることに個人差がある。また、目的に応じて必要な資料を正確に見付け、書き抜くことに課題がある。 - 自分の考えを主体的に話すこと、話の要点や意図を考えながら聞くことが不十分な児童も見られる。 - 漢字の学習に粘り強く取り組む児童が多いが、既習の漢字を日常的に適切に使うことができない児童も見られる。	- 既習事項を生かし、要旨の読み取りや筆者の考えの読み取りのポイントを意識して指導していく。 - 誰に何を伝えるために情報を集めるのか相手意識や目的意識を明確にし、文章構成を考えて書くことができるように指導する。問われていること、目的を的確に把握し、必要な部分を短く線を引くなど、具体的な指導をする。 - 考えの交流をする時間を確保し、お互いの書き方の良さを学びあうとともに、自分の考えに自信をもてるようにしていく。 - 積極的に辞典を使うことができるよう学習環境を整える。また、定期的に前学年までの漢字も復習する機会を設ける。
社会	- 資料を基に関心をもって学習問題を立てようと意欲的な児童もいるが、個人差が大きい。 - 調べる活動については意欲的に取り組む児童もいるが、複数の資料を比較・関連し、そこから考え、まとめる力を身に付ける必要がある。 - 社会的事象について興味や関心をもっている児童も多いが、方位、大陸や海の名前等の基礎的事項の理解や、資料の読み取りなどの技能の面では習熟が不十分な児童も見られ、差が大きい。	- 児童一人一人に疑問を出させ分類し、学習問題を作っていくことで、全員の意見が反映された学習問題を立てていく。 - 児童の生活や経験を踏まえ、身近な事象を取り上げて興味や関心をもたせるとともに、それらの事象が社会や国民生活に深く関係していることに気付かせる。また社会的事象に関わる問題に目を向けさせ、自分なりの考えをもたせるようにするとともに、話し合い活動の場を多く設ける。 - 資料の見方を丁寧に指導していくとともに、複数の資料を参照するときには資料を読み取る視点を示し、比較させたり、関連させたりして考えさせる。また資料から読み取れる事実とそこから考えられる事柄を分けて表現させる。

算数	・ 5展開の習熟別指導を行っている。 ・ 既習の基礎的な知識や技能が定着していない児童も一定数いる。 ・ 自分の考えを筋道立てて表現する力の個人差が大きい。	・ 個に応じた指導を心がけ、計算の基礎的な技能はドリル学習等で反復を通して習熟させる。また、学習の前には前時や既習事項の復習を適時取り入れ、本単元の学習につなげていく。 ・ 「言葉、式、図、数直線」などを活用させることで、自力で主体的に問題解決できる力を高めるとともに、筋道を立てて説明できる力を伸ばす。
理科	・ 生物への関心が高く、実験や観察の際に意欲的に取り組む児童が多い。 ・ 「変える条件」「変えない条件」を考え、条件制御をして計画を立てることに個人差がある。 ・ 結果に対して、なぜそうなったかやそこから何がわかるか(考察)を書くことが難しい児童も一定数いる。	・ 条件制御をする際、学習者用端末を活用したりしながら「変える条件」「変えない条件」に表に分けることで、考えを整理しながら計画を立てることができるようにする。 ・ より妥当な考察をすることができるよう、予想の段階で様々な考えを共有する。そして、結果からどのようなことが分かるのかを考えたり、他の班の実験結果を共有する時間を設けたりすることができるようにする。 ・ 考察を書く時の定型文を示し、当てはめて書けるようにする。
体育	・ 体を動かしたり、友達と協力してゲームに取り組んだりすることに意欲的な児童が多い。苦手な運動内容に対して、積極性に欠ける児童も数名見られる。	・ 集団での関わりを大切にして、互いに声を掛け合い、達成感を共有できる雰囲気大切に指導していく。 ・ 自分の課題を意識しそれを解決するために練習の場を工夫したり、練習を選ばせたりする。ICT も活用しながら課題に気付けるようにする。スモールステップで技能を高めていく。
家庭	・ 真面目に前向きに取り組むことができる児童が多いが、全体的に経験が足りていない傾向にあり、調理器具の扱いや裁縫道具の使い方など初歩的なことにも不慣れである。 ・ 安全に留意して慎重に実習を行うことができたが、その分、時間に余裕がなく、実習後の振り返りの時間を十分に取ることが難しかった。 ・ 特に裁縫の技能に個人差が大きく、糸と針の扱いに不安がある児童が複数名いる。	・ 基礎的な技能を丁寧に教え、まずは全体の技能定着を図るようにする。 ・ ミニテストなどを実施して細かく見取り、個別に指導する必要がある児童を重点的に指導できるようにする。 ・ 時間配分を考えて実習計画書を書かせ、効率的に実習を進められるようにイメージ、分担させるようにする。 ・ 裁縫が得意な児童が苦手な児童をサポートできるようにグループ編成をして、児童同士が教え合える機会を増やしていく。

道徳	・道徳的価値について、その大切さを授業の中でしっかりと考えることができる。しかし、それを実生活の中で実践していくことができる児童は少ない。 ・自分の考えを書くことは多くの児童ができるが、それを友達に伝えることには個人差がある。 ・自分の気持ちを優先してしまい、相手の気持ちを考えて思いやって行動することに課題がある。	・道徳授業を学級活動や各教科とも関連付けて、道徳授業での学びが一層生かされるように効果的に主題を設定する。 ・少人数グループで自分の考えを伝え合う活動を設定し、多様な意見があることを認める風土づくりを行う。自分の考えを伝える力やお互いの考えを尊重する態度を高めたい。 ・一人一人の思いを受け止めつつ、お互いの気持ちを伝えたり考えあったりして共感、理解できるようにしていく。
外国語	・英語に興味をもっている児童は多い。しかし、授業の中で学んだことを次の授業や日常生活に生かそうとする児童は少ない。 ・初めて習う英単語に対して苦手意識をもつ児童がいる。	・授業で学んだ外国語表現を日常生活でも活用できるよう、意識付けを図る。 ・初めて習う英単語や英会話に対して積極的に発言できる雰囲気をつくっていく。